

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月7日現在

機関番号：62608

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22720090

研究課題名（和文） 中近世の尼寺における文芸・文化研究—比丘尼御所を起点として—

研究課題名（英文） Studies on literature and cultural activities in Buddhist nunneries during Medieval and Early Modern period - starting with bikuni-gosho-

研究代表者

恋田 知子 (KOIDA TOMOKO)

国文学研究資料館・研究部・機関研究員

研究者番号：50516995

研究成果の概要（和文）：

近衛家の子女が入寺した比丘尼御所における形成・享受の可能性が指摘される陽明文庫蔵「道書類」について、作品の特定と翻刻・紹介を進め、文学史上における意義付けを試みた。一方、室町後期から近世初期にかけての寺院圏と貴族圏とのかかわりのなかで生成・享受された宗教的言談についても分析を進め、尼寺の文芸基盤となる文化圏の実態解明に努めた。

研究成果の概要（英文）：

Regarding Dōsho-ru, a set of texts in the Yōmei Bunko Foundation collection, it is pointed out to have been created and appreciated at bikunigoshō where young women from Konoe family lived. I introduced the each text of Dōsho-ru with the reproduction, specified the contents and tried to understand its place in the history of Japanese literature. On the other hand, by analyzing the religious texts (including the oral literature) which generated and appreciated among relationship between the Buddhist temples and the aristocrats spheres, from the later Muromachi period to the early Edo period, I tried to clarify the actual condition of cultural sphere which was a foundation of the Buddhist nunnery's literature.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：尼寺・比丘尼御所（尼門跡）・物語草子・仮名法語・陽明文庫・絵巻・説話

1. 研究開始当初の背景

近年、物語草子と談義・唱導の場との関連について、法華経注釈書や浄土系談義書、真

宗の談義本等を通して活発に論じられるようになり、談義・唱導の場を経た物語草子の生成の様相が徐々に明らかになってきている。しかしながら、物語草子から談義・唱導

の場への還流や実際の場の想定、そこでの具体的な文芸営為等については考察が及んでいない。報告者は、とくにお伽草子、絵巻、語り物などの室町期を中心とした物語文芸を「物語草子」として巨視的にとらえ、經典の談義や法会の唱導の場において生成・享受されるテキスト群およびその説話と対照することで、これまで個別に論じられてきた文芸と宗教との相関関係を明らかにしながら、室町期の文芸の様相を考察してきた。その結果、物語草子群の多くが書写、絵巻化、貸借という面で比丘尼御所を介しており、寺社縁起や物語草子、あるいは公家や将軍家、寺家やその周辺に存した伝承・説話が行き交う場と認められることから、室町期の文芸サロンとして位置づけられるとの見通しに至った。

以上のような観点から、2005～2007年度科学研究費（特別研究員奨励費）の研究課題「比丘尼御所の文芸文化と室町期の説話・物語草子の研究」を遂行し、その成果を、2007年度日本学術振興会科学研究費（研究成果公開費）の助成を受け、『仏と女の室町 物語草子論』（笠間書院、2008年）として公刊した。

また、これまでの研究成果を踏まえ、具体的な書物の発掘・調査・考察といった点から、尼寺を中心とした中世寺院における物語草子の形成・享受についての研究を進めてきた。現存尼門跡に蔵される絵巻類の調査過程で見いだした慈受院蔵『大織冠絵巻』について、その紹介と考察を一書にまとめた（『薄雲御所慈受院門跡所蔵大織冠絵巻』勉誠出版、2010年）。

このように、尼門跡・尼寺での物語形成・享受の様相を、個別の事例の蓄積によって明らかにするとともに、貴族圏における宗教的言談の形成・享受についても、考察を進めてきた。たとえば、近衛家ゆかりの陽明文庫には「道書類」と称される仮名法語類が伝来するが、そこには『幻中草打画』や『恋塚物語』などのお伽草子作品が収められていることが判明し、各書物の全文紹介と分析に着手した。（2008～2009年度日本学術振興会科学研究費（若手スタートアップ）「陽明文庫蔵仮名法語類の研究－「道書類」を中心として－」）

しかしながら、比丘尼御所の文芸文化の実態については、廃絶寺院を含め、諸宗派を見渡す形での個別の事例の研究蓄積が必須である。さらに、陽明文庫蔵「道書類」の調査・分析において明らかとなったように、当時の比丘尼御所を経由したことが明確な書物が他の寺院や図書館・文庫などに移管している例や比丘尼御所に類した尼寺での文芸活動の例なども認められ、さらなる調査範囲の拡大が必要不可欠と考える。

2. 研究の目的

報告者のこれまでの研究により、比丘尼御所という場は、寺社縁起や物語草子、あるいは公家や将軍家、寺家やその周辺に存した伝承・説話が行き交う場と認められ、室町期の文芸サロンとして位置づけられるとの見通しに至った。そのような寺院圏と貴族圏の接点となる比丘尼御所の文化営為についての研究、すなわち“比丘尼御所文芸論”を本研究の起点とし、調査範囲の拡大をはかりつつ、さらなる事例の蓄積によって、「尼寺資料群」のデータベースを構築し、中近世の尼寺における文芸営為の様相について明らかにしたい。

3. 研究の方法

2008～2009年度日本学術振興会科学研究費（若手スタートアップ）「陽明文庫蔵仮名法語類の研究－「道書類」を中心として－」において、着手した陽明文庫蔵「道書類」について、引き続き、調査・分析をおこない、未だ特定されていない書物について、その特定を進めるとともに、各作品についての考察、および翻刻紹介を継続しておこなう。

また、室町期の古記録・公家日記等から抽出される書名（またその書写経路）を分類・分析し、国内外の図書館、文庫等の目録や奥書集成等を参照しつつ、各機関の資料群の中から、尼寺を介したと考えられる物語草子を中心とする文芸資料群の基礎的書誌調査をおこなう。その際、文芸資料のみに限定せず、聖教・非聖教・外典の類までふくめたデータベース構築のための情報収集に努める。その上で、尼寺の文化史・文芸史的意義について考察していく。

さらに、収集の過程で明らかとなったものや、本研究にかかわり、重要な問題を孕むような物語草子・説話テキスト等について、個別に分析を施し、適宜、発表・論文報告をおこなう。

4. 研究成果

第一に、近世初期の近衛家とその周辺の文化圏（比丘尼御所）における法語受容の具体相を明らかにするため、2008～2009年度日本学術振興会科学研究費（若手スタートアップ）「陽明文庫蔵仮名法語類の研究－「道書類」を中心として－」における調査・研究を継続し、陽明文庫に蔵される仮名法語類について、各作品の特定を進め、考察をおこなった。陽明文庫蔵「道書類」のうち、『大灯國師法語』、『彼岸記』、『浄土宗仮名法語』、『念仏往生修行門』、『抜隊法語』、『佛國禪師法語』、『仮名書き法華経』巻第七の7作品の全

文翻刻および解題を発表した。

(1) 『大灯國師法語』については、花園天皇の皇后に説示したとされる法語のみを写した抄本であり、夢窓國師仮託の『二十三問答』などの道書類の他の禅宗系仮名法語と同様、女性向けの法語としての側面が色濃いことを指摘した(『三田國文』51号、2010年6月)。

(2) 『彼岸記』については、これまで真宗談義本のみが知られていたが、本書はそれとは異なる系統にあり、調査の結果、西本願寺蔵室町末期写本、および江戸後期の平仮名絵入り版本と同系統であることが判明した(『三田國文』52号、2010年12月)。

(3) 『[浄土宗仮名法語]』は、ある女房の求めに応じて、法然の教えや道歌をちりばめ、念仏の教えを平易に説いたとする新出の浄土宗の仮名法語である(『三田國文』53号、2011年6月)。本書については、『真如堂縁起』と共通する和歌を有しつつも、その制作時を遡る本奥書があることなどから、貴顕による制作状況が明らかな『真如堂縁起』の特徴を明示するとともに、室町期の縁起制作の一端が窺える貴重な文献として本書を位置づけた(『国文学解釈と鑑賞』75-12、2010年12月)。

(4) 本研究において特筆すべき成果として、『念仏往生修行門』の発見が挙げられる。『念仏往生修行門』については、従来『法然上人行状絵図』(四十八巻伝)巻四十六に、聖光房弁長制作の書物として大意が記されるものの、現存は確認されておらず、散逸とされてきた幻の書物であった。その弁長作『念仏往生修行門』の元和年間の書写本であることが判明した。当該作品の存在が明確となったのであり、極めて貴重な一本と位置づけられる(『三田國文』54号、2011年12月)。

(5) 『抜隊法語』については、抜隊得勝の仮名法語のうち「神竜寺尼長老」に宛てたとする法語部分を抄出し、さらに夢窓疎石が母の求めに応じて記したとする夢窓の仮名法語、および「由良長老法語」として無本覚心の法語が付された、三種の禅宗仮名法語の合写であることが判明した(『三田國文』55号、2012年6月)。

(6) 『仏國禪師法語』については、これまで京都大学図書館蔵本が知られるのみであったが、「道書類」のなかにもその存在が確認された。京大本は、近衛家伝来の書物群からなる近衛文庫に収められており、伝来状況からみても、両者は近世初期の近衛家周辺と

いう極々限られた場で享受されていた可能性が指摘される。なお、京大本は本書と共通する「仏國禪師法語」の後に、「國師の法語」として、別の禅宗仮名法語を合写しており、そこには、同じく「道書類」に収められた『抜隊仮名法語』内に付された夢窓疎石の仮名法語との共通が指摘でき、同系統の夢窓の仮名法語から、京大本、「道書類」本のそれぞれが抄出した可能性が示唆される(『三田國文』56号、2012年12月)。

(7) 『[仮名書き法華経] 卷第七』については語彙や語順、左訓の表記など妙一本との類似が認められるものであり、しばしば女性の読誦を意図したとの指摘もなされる仮名書き法華経が本書物群に収められていた点は、その生成・享受や伝来を考える上で興味深いものがある。

以上のように、いずれも報告書の研究の継続・遂行によって、新たに見出された貴重な仮名法語であり、比丘尼御所の尼僧向けという本書物群の性格を裏付ける要素も認められるものである。こうした研究蓄積を中心として、物語草子と仮名法語をめぐる最新の研究状況と成果、展望について、伝承文学研究会東京例会400回記念座談会「領域の深化と多様性-テキスト・資料の発掘、文化としてのアプローチ-」(パネリスト:藤巻和宏、伊藤慎吾)において、パネリスト報告をおこなった。

また、「陽明文庫蔵仮名法語類の研究-「道書類」を中心として-」(若手スタートアップ)における研究を継続させつつ、本研究による成果を反映させて、その成果を公刊した。すなわち、念仏道場として極めて重要な尼寺で、室町期には比丘尼御所に類した性格をも有していた京都の西方尼寺に蔵される『真盛上人伝絵巻』について、現存『真盛上人伝』諸本に所収される説話内容の検討、および制作状況の考察から、西方尼寺蔵本には、その制作・享受という面で尼僧の関与が明確であることを論じ、尼寺・尼と絵巻をめぐる新しい研究の方向性を提示した。さらに、先の陽明文庫蔵「道書類」の研究成果をふまえ、比丘尼御所の関与のもと、書写・伝来した物語草子の様相を考察し、法語と物語草子との近似性について明示した上で、時代やジャンルによって区分された従来の研究にとらわれない、制作・享受の場に照らした、新たな物語研究の必要性について論じた(『中世文学と寺院資料・聖教』竹林舎、2010年、分担執筆)。

さらに、室町期の比丘尼御所の尼僧による参詣の記録である『熊野詣日記』について、その成立環境や伝来圏について考察した。熊野参詣の先達かつ記録者であった本山派修

験の重鎮住心院実意の活動とその文化ネットワークについて、旧稿を踏まえつつ再検討を施し、貞成親王によって本書と同時期に書写された『宝蔵絵詞』について、両書が実意によって成された可能性について検討した。

(『修験道の室町文化』岩田書院、2011年、分担執筆)。なお、貴顕伝来の物語草子『宝蔵絵詞』に関連して、貴族圏での享受が想定される庶民物のお伽草子『猿源氏草子』について、物語や説話にあらわれた「鯛」の信仰の様相を分析し、本物語の構造や生成、享受圏についても考察した(『鳥獣虫魚の文学史』三弥井書店、2012年、分担執筆)。

また、尼僧をめぐる物語絵という観点から、国文学研究資料館蔵の奈良絵本『唐糸草子』『静草紙』について検討し、挿絵の特徴や制作状況についての考察を試みた(『国文研ニュース』24号、2011年)。

第二に、以上のような比丘尼御所に関わる書物についての調査・研究をおこなう一方、本研究にかかわる中世寺院圏における物語草子・説話の生成と享受という観点から、安土浄厳院や大阪市立美術館等の文献について調査・研究を進め、口頭発表や論文執筆をおこなった。

まず、薦僧による女人教化の物語草子である大阪市立美術館蔵『はいかひ』絵巻について、虚無僧の図像展開の様相や一休仮託の仮名法語との相関等からの考察を試みた(科研費基盤研究A「大画面説話画の総合研究」主催ミニシンポジウム「お伽草子絵巻」(パネリスト:高岸輝、藤原重雄)ほか)。

さらに、室町前期の浄土僧隆堯に注目し、その著作や書写本を例に、浄土宗談義の具体相やそこでの説話、比丘尼御所の尼僧が関与した書物との関連について考察した。その上で、浄厳院蔵『発名能可利父子拔書』(孤本)を取り上げ、分析を試みた。近衛道嗣の急死を契機に仏道問答を展開する当該作品には、足利義満や二条良基ら道嗣周辺で述作された可能性も指摘される。隆堯書写本は『禁裡御蔵書目録』に書名が散見し、当時の貴顕と寺家との書物を通じた交流実態が想定され、法語と物語草子の生成・享受の具体相を明示する資料群と考えられる。貴顕による宗教的言説の受容の具体相について明らかにし、寺院の書物群が室町文化に果たした役割について論じた(説話文学学会九月例会シンポジウム(パネリスト:堀川貴司、松本麻子)、2011年10月、『説話文学研究』47号、2012年7月)。

以上の考察を契機として、中・近世の寺院圏と貴族圏との交流実態について解明をめ

ざし、寺院における文化営為や物語文芸を総体的に把握し、尼寺の文芸・文化研究の相対化をはかるため、引き続き、平成25~27年度科学研究費補助金基盤研究(C)の助成を受け、研究課題「尼寺の文芸文化と物語草子・仮名法語における相互関連の研究」に取り組んでいる。

以上のように、室町後期から近世初期にかけての寺院圏と貴族圏とのかかわりのなかで生成・享受された宗教的言談について分析を進め、尼寺の文芸基盤となる文化圏の実態解明に努めた。蓄積しつつある尼寺に関わる文芸資料群のデータベースについても、引き続き、拡充をはかり、今後の研究成果の公開に活かしていく所存である。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計10件)

①恋田知子「陽明文庫蔵「道書類」の紹介(十三)『[仮名書き法華経] 卷第七』翻刻・略解題」(『三田國文』57号、2013年6月刊行予定、査読無)

②恋田知子「陽明文庫蔵「道書類」の紹介(十二)『佛國禪師法語』翻刻・略解題」(『三田國文』56号、2012年12月、60~67頁、査読無)

③恋田知子「浄土宗談義と説話・物語草子—隆堯の著作・書写活動を端緒として—」(『説話文学研究』47号、2012年7月、123~134頁、査読有)

④恋田知子「陽明文庫蔵「道書類」の紹介(十一)『拔隊法語』翻刻・略解題」(『三田國文』55号、2012年6月、70~76頁、査読無)

⑤恋田知子「陽明文庫蔵「道書類」の紹介(十)弁長作『念仏往生修行門』翻刻・略解題」(『三田國文』54号、2011年12月、37~46頁、査読無)

⑥恋田知子「陽明文庫蔵「道書類」の紹介(九)『[浄土宗仮名法語]』(長享二年本奥書本)翻刻・略解題」(『三田國文』53号、2011年6月、47~57頁、査読無)

⑦恋田知子「国文学研究資料館蔵『[ねんぶつ] 絵巻—翻刻と解題—』(『国文学研究資料館紀要文学研究篇』37号、2011年3月、165~181頁、査読無)

⑧恋田知子「陽明文庫蔵「道書類」の紹介(八)『彼岸記』翻刻・略解題」(『三田國文』52号、

2010年12月、33～39頁、査読無)

⑨恋田知子「室町の社寺縁起絵—『真如堂縁起』をめぐって—」(『国文学解釈と鑑賞』75-12、2010年12月、154～161頁、査読無)

⑩恋田知子「陽明文庫蔵「道書類」の紹介(七)『大灯國師法語』翻刻・略解題」(『三田國文』51号、2010年6月、27～32頁、査読無)

[学会発表] (計5件)

①恋田知子「法談のお伽草子」科研費基盤研究A「大画面説話画の総合研究」主催ミニシンポジウム「お伽草子絵巻」(パネリスト:高岸輝、藤原重雄)、2012年10月23日(於、東京大学史料編纂所)

②恋田知子「物語草子とその周辺」伝承文学研究会東京例会400回記念座談会「領域の深化と多様性—テキスト・資料の発掘、文化としてのアプローチ—」(パネリスト:藤巻和宏、伊藤慎吾)、2012年10月6日(於、学習院女子大学)

③恋田知子「物語草子にみる禅—『はいかひ』絵巻をめぐって—」国際高等研究所「宗教が文化と社会に及ぼす生命力についての研究—禅をケーススタディとして—」第2回研究会、2011年12月17日(於、国際高等研究所)

④恋田知子「浄土宗談義と説話・物語草子—隆堯の著作・書写活動を端緒として—」説話文学会九月例会シンポジウム(パネリスト:堀川貴司、松本麻子)、2011年10月1日(於、明星大学)

⑤恋田知子「禅宗の仮名法語と物語草子」国際高等研究所「宗教が文化と社会に及ぼす生命力についての研究—禅をケーススタディとして—」第1回研究会、2010年9月4日(於、国際高等研究所)

[図書] (計6件)

①恋田知子「霊場巡礼の成立と縁起生成—巡礼縁起の形態を端緒として—」(徳田和夫編『中世の寺社縁起と参詣』竹林舎、2013年、分担執筆、156～172頁)

②恋田知子「寺社縁起」(小峯和明編『日本文学史—古代・中世編』ミネルヴァ書房、2013年、分担執筆、227～230頁)

③恋田知子「『猿源氏草子』の鯛」(鈴木健一編『鳥獣虫魚の文学史—魚の巻』三弥井書店、2012年、分担執筆、178～193頁)

④恋田知子「『熊野詣日記』の制作圈—熊野参詣の儀礼と物語草子」(川崎剛志編『修験道の室町文化』岩田書院、2011年、分担執筆、55～74頁)

⑤恋田知子「直談と縁起—墮地獄・蘇生の物語—」(徳田和夫・堤邦彦編『遊楽と信仰の文化学』森話社、2010年、分担執筆、442～447頁)

⑥恋田知子「尼門跡および尼寺—女性のまなざしの許にある宗教テキスト—」(阿部泰郎編『中世文学と寺院資料・聖教』竹林舎、2010年、分担執筆、501～521頁)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

恋田 知子 (KOIDA TOMOKO)

国文学研究資料館・研究部・機関研究員

研究者番号: 50516995

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号: